

福島県文化財センター白河館

年報 2 0 1 4

～平成 2 5 年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

年報 2014 の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

まほろんでは、2011年3月の東日本大震災後、「元気発信」を合い言葉に、福島県の復興の一助となるよう活動してまいりました。その結果、震災の影響で急激に減少した来館者数も、徐々に戻りつつあります。2013年5月以降は、野外の体験広場で遊んだり、お弁当を広げる子ども達の姿が見られるようになり、2014年2月には、開館以来の入館者数が、40万人を達成いたしました。これまでの皆様からのご支援に、心から感謝申し上げます。

まほろんへの来館者のうち、小学生は約3割を占めています。学校で行われる歴史の学習に合わせて来館していただいているようですが、引率された先生方からは、「教科書にはない、ひと味違った視点から時代を見つめることができました。」と感想をいただきました。これは、土器などの遺物に直接触れたり、時代毎に人々の生活の跡を記した遺跡の地図を見たりするばかりでなく、勾玉を作るといった“実体験”を通して、過去の人々の営みを実感することができるからだと思っています。

まほろんでは、特にこの体験活動を充実させ、平成25年度には、様々な体験学習の機会を提供いたしました。中学3年生までを対象として受講者を募集し、古墳を探検し研究成果をまとめた「まほろん森の塾」や、土器づくりやカラムシから布をつくるなどの講座も開催しました。

企画展では、我が国の代表的な装飾横穴として国の史跡に指定された、いわき市中田横穴墓を取り上げました。まほろんでは、古代の技術を知ろうと、ここから出土した馬鈴をはじめとする馬具の復元製作研究を行ってきましたが、この集大成として、「ふくしまの重要文化財ⅩⅠ 古墳時代の馬具―いわき市中田横穴墓出土の馬具―」を開催し、復元品を展示公開しました。

さらに、他の博物館や文化施設と積極的に連携し、いくつかの事業を実施しました。特に、2013年12月から開催した特別展「震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムinまほろん」では、国立科学博物館のご協力を得て、恐竜（「アロサウルス」など）の骨格標本（化石）を展示しました。多くの方にご覧いただき、大人も子供も感嘆の声をあげながら見ていた姿が印象的でした。

また、被災した双葉町、大熊町、富岡町の各資料館から救出した文化財を展示する特別企画展を前年に引き続き開催しました。展示資料は、獅子頭、仏像、甲冑、そしてカメラなど多彩なものを展示しましたが、関係町の多くの住民の方々が、この展示を見学され、故郷の展示品を懐かしんでおられました。

まほろんでは、今後とも、本県復興の一助となるよう様々な事業を実施し、まほろんの活動を通じて、県民の皆様に元気を発信し続けてまいります。



入館者 40 万人達成



もちつき大会

目 次

第1章 まほろんの概要	9	その他	23
1 まほろんの業務	1	1. 年報2013の発行	23
2 まほろんの沿革	1	2. 運営協議会の開催	23
3 平成25年度の主な行事	2	3. 博物館学学外実習	23
4 東日本大震災の影響	2	4. 被災ミュージアム再興事業	23
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況		第3章 平成25年度の組織と予算	
1 利用状況	3	1 組織	24
1. 利用者数	3	2 予算	24
2. 入館者数の内訳と傾向	3	第4章 まほろん施設の概要	25
2 維持管理に関する業務	5	第5章 まほろんの条例・規則	
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	5	1 福島県文化財センター白河館条例	27
2. 施設・設備等の修繕状況	5	2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則	27
3. 備品・物品管理業務	5	まほろんの利用案内	28
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	6		
1. 収蔵資料	6		
2. 資料貸し出し	6		
3. 写真掲載等承認	6		
4. 資料閲覧	7		
4 文化財の活用に関する業務	8		
1. 常設展示	8		
2. 企画展示	9		
3. 講演会等	15		
4. 体験学習	16		
5 文化財に関する情報発信	19		
1. ホームページによる情報発信	19		
2. データベースによる情報提供	19		
3. まほろん通信の発行	20		
6 文化財に関する研修事業	21		
1. 研修実施の概要	21		
2. 研修実施状況	21		
7 文化財の活用に関する調査研究	22		
1. 復元品製作研究	22		
2. 研究紀要	22		
8 ボランティアの運営	22		
1. 募集	22		
2. 登録	22		
3. 活動内容	22		
4. 受け入れ体制	23		

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成25年7月には開館して12年が経過した。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真や図面などの資料を収蔵・管理し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで（財）福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興財団（平成24年10月に名称変更）が管理業務を行った。

指定管理者が行う業務は、以下の通りである。

- 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。
- 文化財の講演会、講習会等の開催に関すること。
- 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
- 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
- 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
- 白河館の維持管理に関すること。
- 上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは、貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”

体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人に

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館 指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人に

平成22年9月10日

開館以来館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館

平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任

平成23年5月1日

震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外施設を除き、再開館

平成24年4月15日

野外展示施設修繕完了、公開を再開

平成24年5月3日

一般収蔵庫修繕完了、公開を再開

平成24年5月19日

開館10周年記念事業を実施

平成26年2月8日

開館からの累計入館者数が40万人に

3 平成25年度の主な行事

平成25年3月7日～6月9日

文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」

平成25年5月3日～6日

GWまほろんまつり

平成25年7月20日～9月23日

指定文化財展「ふくしまの重要文化財ⅩⅠ
古墳時代の馬具—いわき市中田横穴墓出土の
馬具—」

平成25年7月28日 まほろん夏まつり

平成25年9月14日～16日 まほろんを描こう

平成25年10月12日～12月23日

収蔵資料展「ダムに沈んだ遺跡たちⅠ—三春
ダム内の遺跡—」

平成25年10月19日～12月23日

まほろん移動展「ふくしまの重要文化財ⅩⅠ
古墳時代の馬具—いわき市中田横穴墓出土の
馬具—」(いわき市)

平成25年11月4日 まほろん秋まつり

平成25年12月1日 まほろんもちつき大会



GWまほろんまつり「時代衣装を着てみよう!」

平成25年12月4日～2月9日

特別展「震災復興・国立科学博物館コラボ
ミュージアムinまほろん」

平成26年1月18日～3月23日

文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅱ」

平成26年1月11日 第10回双六大会

平成26年2月16日 まほろん冬まつり

平成26年3月15日 第8回杖毬大会



「古墳時代の馬具—いわき市中田横穴墓出土の馬具—」ポスター

4 東日本大震災の影響

平成23年3月11日に発生した大震災の影響があった体験広場の除染工事が、福島県によって行われ、4月下旬には工事が完了した。GWまほろんまつりからは、体験広場での活動が可能となった。

また、福島県教育委員会は、福島県被災文化財等救援本部・被災市町村・国関係機関などによって救出された浜通り地方の文化財を保存するため、温湿度条件の安定する仮保管施設をまほろんの敷地内に設置している。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成25年度の事業計画においては、開館日数を311日と予定していたが、平成26年2月9日に大雪のため臨時休館とした結果、310日となった。

平成25年度の総利用者数は、32,195名（平成24年度30,662名）で、前年度に比べ1,533名の増加となった。入館者数は、27,127名（平成24年度26,597名）、館外利用者数は、5,068名（平成24年度4,065名）であった。

入館者数については、前年度から530名（対前年102.0%）増加した。ゴールデンウィーク期間や季節毎にイベントを開催し、学校の夏季休業期に40日間連続で開館するなど、積極的に運営を行った。

また、国立科学博物館の被災地支援事業を受け開催した特別展「震災復興・国立科学博物館 コラボミュージアムinまほろん」の集客効果で、通常は入館者が減少する12月から1月にかけて、入館者が大幅に増加した。

一方、2月には近年にない大雪に見舞われ、2月9日には臨時休館を余儀なくされ、2月の入館者数が前年より大幅に減少したものの、最終的には年間の入館者数は前年度から530名

増加した27,127名となった。

館外利用は、いわき市教育委員会と共催した移動展や、47校（過去最高の実施校数）で行った「おでかけまほろん」などが要因となり、前年度から1,003名（対前年比124.7%）の増加となった。

2. 入館者数の内訳と傾向

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が87.2%（24年度87.0%）、県外が12.8%（24年度13.0%）であった。

県内の利用者のうち、白河市内の利用者は36.6%（24年度34.9%）で、前年度と概ね同じ傾向であった。

県外からの来館者は前年度とほぼ同数の3,473名（24年度3,459名）であった。

（2）年齢別利用状況

幼児・小中・高校生は、入館者全体の41.7%（24年度41.3%）を占め、11,320名となった。

また、小中学生の入館者は前年度より223名減少したが、幼児が410名、高校生が158名それぞれ増加した。高校生以下の入館者は合計で前年度より345名増加となった。

月別入館者数

	平成25年度							平成24年度	
	開館日数	幼児	小中学生	高校生	一 般	入館者数	館外利用者数	入館者数	館外利用者数
4月	25	85	708	4	1,086	1,883	152	2,191	429
5月	27	216	1,384	50	2,064	3,714	543	3,390	417
6月	26	174	1,393	17	1,440	3,024	263	3,283	296
7月	28	222	1,119	53	1,413	2,807	129	2,398	105
8月	30	190	703	84	1,574	2,551	163	2,606	102
9月	25	147	750	9	1,224	2,130	1,009	2,405	698
10月	27	131	876	4	1,126	2,137	1,063	2,546	1,135
11月	26	193	416	84	1,466	2,159	1,021	1,673	114
12月	23	454	537	19	1,535	2,545	549	1,940	288
1月	24	263	464	10	1,218	1,955	176	833	0
2月	23	81	207	8	661	957	0	1,623	25
3月	26	86	166	13	1,000	1,265	0	1,709	456
合計	310	2,242	8,723	355	15,807	27,127	5,068	26,597	4,065

(3) 団体利用状況

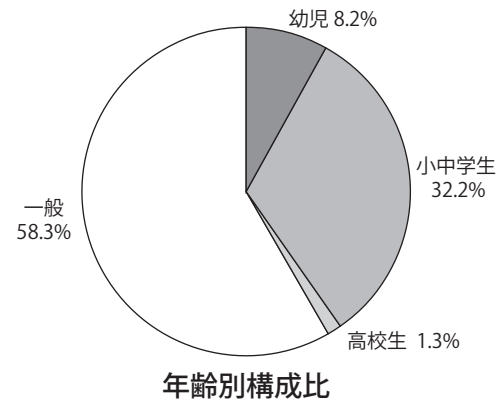
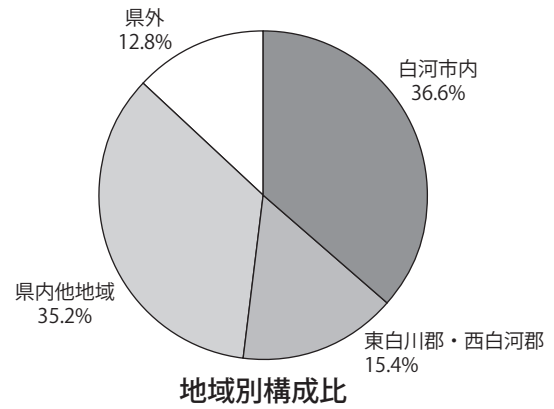
入館した団体数は258団体（24年度は273団体）、団体による来館者数は8,996名（24年度9,222名）となり、前年度より226名減少した。

団体利用の約7割を占める学校関係は前年度とほぼ同じ人数で、特に小学校は、過去最高を記録した前年度の104団体に次ぐ、100団体が利用し、その利用者数は5,139名であった。

これは、福島県教育委員会が実施する「ふくしまっ子応援事業」や、地道な学校訪問などの成果が現れていると考えられる。

福祉施設やデイケアサービスなどの社会福祉関係団体の利用は、前年度から更に231名増加しており、公民館等の生涯学習関係団体の利用者数は82名の減少となっている。

また、近隣の温泉施設が観光客を引率して利用する団体等の利用者数は、前年度に比べ22団体、541名減少した。



団体利用者一覧

団 体			平成25年度														平成24年
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1	1	2		1	2				1		8	7	
		来館者数		28	68	53		62	84				16		311	324	
	小学校	学校数	11	19	22	11		9	11	3	1	9	4		100	104	
		来館者数	502	981	1,120	647		587	741	135	24	257	145		5,139	5424	
	中学校	学校数	1				1	1	1						4	6	
		来館者数	9				66	10	17						102	153	
	高等学校	学校数		1		1				3					5	3	
		来館者数		32		16				83					131	59	
	養護学校	学校数													0	3	
		来館者数													0	30	
	大学	学校数			1	1	1			1	1				1	6	3
		来館者数			20	6	33			25	18				11	113	54
	生涯学習関係	幼小中高PTA （保護者のみ）	学校数													0	0
			来館者数													0	0
幼小中高PTA （親子レク等）		学校数			6	2	1	1	2		1				13	8	
		来館者数			267	85	22	64	92		74				604	423	
研究会		会数													0	3	
		来館者数													0	82	
子ども会		会数				4	2							1	7	8	
		来館者数				149	43							10	202	242	
公民館等		館数		2	1	1	6	3	4	2					19	16	
		来館者数		64	33	37	145	61	46	47					433	393	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数	7	5	3	2	2	9	4	2		2	1	2	37	35	
来館者数		126	72	32	35	134	73	39		24	10	19	564	333			
文化団体関係	資料館等	館数	1				1								2	1	
		来館者数	5				44								49	41	
	歴史研究	団体数			2	2		1	1	2	3		1		12	4	
来館者数			68	52		46	21	38	82		10			317	100		
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数				1				2				1	4	9	
来館者数					55				91				6	152	144		
その他	その他	団体数	1	8	6	2	1	3	5	9		2	3	1	41	63	
		来館者数	18	259	96	35	23	69	90	172		28	62	27	879	1420	
合計	団体数	14	38	44	30	15	28	30	24	6	13	10	6	258	273		
	団体来館者数	534	1,490	1,744	1,167	411	1,033	1,164	630	198	309	243	73	8,996	9,222		
総来館者数		1,883	3,714	3,024	2,807	2,551	2,130	2,137	2,159	2,545	1,955	957	1,265	27,127	26,597		
団体利用者の割合（％）		28.36%	40.12%	57.67%	41.57%	16.11%	48.50%	54.47%	29.18%	7.78%	15.81%	25.39%	5.77%	33.16%	34.67%		

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務／常光サービス(株)
- (2) 消防設備保守点検業務
／車田電気工業(株)
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
／(株)ハイン
- (4) 自動ドア保全業務
／(株)明成エンジニアリング
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
／(有)メンテナンス東北
- (6) 展示用及び講堂用AV機器保守点検業務
／(株)オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務／堀田造園(有)
- (8) 清掃業務／(株)タイセークリーン
- (9) 警備業務／福島総合警備保障(株)
- (10) 電話設備等点検業務／(株)ユニテック
- (11) 除雪業務／(有)猪越土木

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成25年4月26日
空調加湿装置及び給水ポンプ圧力タンク修繕
- (2) 平成25年5月10日
特別収蔵庫空調機加湿装置修繕
- (3) 平成25年6月21日
講堂ガスヒートポンプエアコン修繕
- (4) 平成25年7月19日
常設展示室「めぐみの森」コーナー音響
アンプ修繕
- (5) 平成25年7月31日
研修室ブラインド修繕
- (6) 平成25年10月16日
台風による倒木伐採工事
- (7) 平成25年10月31日
体験広場樹木支柱修繕
- (8) 平成25年11月30日
立枯樹木伐採等工事

- (9) 平成26年1月31日
展示台クロス修繕
- (10) 平成26年3月19日
屋根修繕
- (11) 平成26年3月27日
古墳時代の前方後円墳扉修繕
- (12) 平成26年3月28日
正面出入口敷石修繕
- (13) 平成26年3月28日
一般収蔵庫電気設備修繕
- (14) 平成26年3月28日
講堂AV設備修繕
- (15) 平成26年3月28日
消防用設備等修繕
- (16) 平成26年3月28日
常設展示室映像ボックスディスプレイと
LD映像機器修繕



講堂のビデオプロジェクター映像

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合 計
一般収蔵庫	43,656	3,046	1,067	520	10	48,299
特別収蔵庫	502					502
合計	44,158	3,046	1,067	520	10	48,801

※ 1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱
※ 2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺 物

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 25.4.1 ～平 26.3.31	福島県立博物館（常設展示）	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,478
平 25.4.1 ～平 26.3.31	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館（常設展示）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平 25.4.1 ～平 26.3.31	独立行政法人国立科学博物館（常設展示）	飯館村日向南遺跡出土縄文土器ほか	8
平 25.4.1 ～平 26.3.31	郡山市教育委員会（大安場史跡公園常設展示）	郡山市弥明遺跡出土旧石器	5
平 25.4.1 ～平 26.3.31	磐梯町慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路口・法正 尻遺跡」）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	23
平 25.4.1 ～平 26.3.31	須賀川市立博物館（常設展示）	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平 25.5.9 ～平 26.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所	南相馬市鳥打沢 A 遺跡出土土師器ほか	24
平 25.5.16 ～平 26.3.31	福島県立博物館（「ふるさとの考古資料 4【大熊町】遺跡探訪」）	大熊町上平 A 遺跡出土縄文土器ほか	55
平 25.7.24 ～平 25.9.20	福島県歴史資料館（発掘された日本列島 2013 関連地域展「ふく しま再生と文化財」）	新地町鷲塚遺跡出土陶磁器ほか	92
		合 計	1,689

(2) 模型及びレプリカ

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量
平 25.4.1 ～平 26.3.31	福島県立博物館（常設展示）	梵鐘復元品ほか	10
平 25.4.1 ～平 26.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館（テーマ展「縄文文化の十字路口・ 法正尻遺跡」）	磐梯町法正尻遺跡復元地形模型ほか	11
平 25.9.20 ～平 25.11.28	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館（テーマ展「われ、 西より来りて那須の地を治める」）	会津若松市会津大塚山古墳出土三角縁神獣鏡複製品 ほか	2
		合 計	23

3. 写真掲載等承認

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平 25.4.12	株式会社アッシュ（洋泉社 MOOK『たのしい縄文入門』）	飯館村上ノ台 A 遺跡 63 号住居跡全景	1
平 25.4.16	菅原祥夫（日本考古学協会『日本考古学 35 号』）	本宮市高木遺跡出土須恵器	1
平 25.4.22	株式会社碧水社（『ずかん 馬具』）	白河市筑内古墳出土馬具、復元品	3
平 25.5.8	福島県立博物館（テーマ展「ふるさとの考古資料 4【大熊町】遺跡探訪」展示パネル）	大熊町上平 A 遺跡 4a 号住居跡写真ほか	22
平 25.6.11	八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館（テーマ展「みみずく土偶と縄文人-関東の晩期 安行文化-」）	羽白 C 遺跡出土人面付土版	1
平 25.7.1	株式会社平凡社（別冊太陽『縄文の世界』）	飯館村荒小路遺跡出土ハート形土偶	1
平 25.7.1	栗東歴史民俗博物館（テーマ展「技術者の系譜～古代近江の金属生産～」）	新地町向田 A 遺跡全景ほか	11
平 25.7.9	福島県歴史資料館（発掘された日本列島展 2013 関連地域展（ふくしま再生と文化財））	新地町双子遺跡全景、1 号丸木舟ほか	34
平 25.7.9	日本テレビ（ホームページ「宝探し謎解きバトル TORE!」）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器	1
平 25.7.16	古河市三和資料館（テーマ展「発掘された古河 5 川戸台遺跡～平安時代の鋳造遺跡～」）	獣脚付容器（羽釜タイプ・獅喙タイプ） 復元品	2
平 25.7.29	株式会社四谷大塚出版（予習シリーズ 5 年 社会）	会津若松市会津大塚山古墳出土 銅鏡復 元品	1
平 25.8.2	栃木県立なす風土記の丘資料館（テーマ展「われ、西より来りて那須の地を治める！」）	特別展図録「復元！三角縁神獣鏡」掲載 写真	6
平 25.8.30	三島市郷土資料館（リニューアルに伴う常設展示用の古墳時代集落解説パネル）	奈良平安時代のカマド（『まほろんガイド』 掲載写真）	1
平 25.9.2	栃木県立博物館（テーマ展「弥生人の祈りー東国の再葬箱ー」図録）	白河市滝ノ森 B 遺跡出土人面土器（まほ ろん図録『ふくしま考古学の春暁』掲載 写真）	2
平 25.9.6	株式会社テレビ朝日（テレビ番組「キス濱ラーニング 2」）	一ノ堰 B 遺跡出土弥生土器	1

承認日	申請者（掲載刊行物等）	資 料 名	数量
平25.9.18	小松市埋蔵文化財センター（テーマ展「こまつ古代の製陶と製鉄」パネル）	獣脚付容器（羽釜タイプ・獅嚙タイプ）復元品	2
平25.9.27	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社（『ひたちなか埋文だより第39号』）	湯川村桜町遺跡9号周溝墓空中写真	1
平25.9.30	株式会社スリーシーズン（株式会社西東社『写真と絵でわかる 日本の合戦』）	軍団兵士模型（『まぼろん通信18号』掲載写真）	1
平25.10.1	行田市郷土博物館（テーマ展「北武蔵の埴輪一坂巻古墳群を中心にー」図録・パネル）	まぼろん復元馬（『常設展解説シート』掲載写真）	1
平25.10.1	株式会社新泉社（『縄文土偶ガイドブック』）	柴原A遺跡出土土偶	1
平25.10.8	長尾修（『歴史春秋第78号』）	能登遺跡、鹿島遺跡、和泉遺跡、冑宮西遺跡土層断面図	16
平25.11.15	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社（テーマ展「郡山の歴史を変えた遺跡」パンフレット）	弥明遺跡出土旧石器、荒小路遺跡土偶出土状況	2
平25.11.26	鈴木啓（『新しい会津古代史』）	湯川村桜町遺跡（2次）遺構配置図	2
平25.12.1	株式会社ジャストシステム（『スマイルゼミ』中学校コース）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器、能登遺跡出土弥生土器	2
平25.12.9	学研教育出版（『絵でわかる社会科辞典⑥ 衣食住の歴史』）	古墳時代の食事、奈良時代の家・カマド（『まぼろんガイド』掲載写真）ほか	3
平26.1.31	株式会社一校舎（『月刊文化財』）	新地町段ノ原B遺跡地割れ痕ほか	1
平26.2.21	戎光祥出版株式会社（『直江兼続と関ヶ原』）	会津若松市神指城跡	5
平26.2.25	南相馬市教育委員会（『鹿島町史1 通史編』）	新地町三貫地遺跡「原口地区」石器分布全体図ほか	16
平26.3.6	群馬県生活スポーツ部（『東国文化副読本』）	軍団兵士模型（『まぼろん要覧』掲載写真）	1
平26.3.17	株式会社ジャストシステム（『スマイルゼミ』小学校コース）	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器、能登遺跡出土弥生土器	2
平26.3.28	（公財）郡山市文化・学び振興公社（『大安場史跡公園ガイドブック』）	郡山市弥明遺跡出土旧石器ほか	2
		合 計	146

4. 資料閲覧
（1）遺 物

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平25.4.24.25	福島県立博物館（企画展の事前調査）	大熊町上平A遺跡出土縄文土器ほか	64
平25.5.22	福島県歴史資料館（企画展の事前調査）	新地町双子遺跡出土丸木舟ほか	469
平25.7.24	県外研究者（調査研究）	南相馬市荻原遺跡出土土偶ほか	3
平25.7.27	県外研究者（調査研究）	新地町師山遺跡出土筒形土器ほか	194
平25.8.24	県内研究者（調査研究）	小野町落合遺跡出土土師器	3
平25.8.25	県外研究者（調査研究）	南相馬市大船迫A遺跡出土刻書土器	12
平25.10.30	県外研究者（調査研究）	石川町薬師堂遺跡出土旧石器ほか	109
平25.10.30	株式会社アイデックス（玉川村観光計画整備事業）	玉川村江平遺跡出土笛	1
平25.11.24	県外研究者（調査研究）	笹内37号横穴墓出土馬具	31
平25.11.28	県外研究者（調査研究）	飯舘村上ノ台A遺跡出土縄文土器	1
平25.12.12.13	北海道大学 高橋克範（縄文晩期の植物利用を目的とした圧痕調査）	会津美里町下谷ヶ地平C遺跡出土縄文土器	963
平26.2.5	喜多方市教育委員会 文化課（調査研究）	湯川村桜町遺跡（2次）出土弥生土器	896
平26.3.13	福島県立博物館（企画展の事前調査）	富岡町上本町G遺跡出土縄文土器・石器ほか	69
		合 計	2,815

（2）その他

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資 料 名	数量
平25.5.30	福島県歴史資料館（企画展の事前調査）	新地町双子遺跡展示用写真パネルほか	31
平25.6.26	栃木県立なす風土記の丘資料館（企画展の事前調査）	会津大塚山古墳出土三角縁神獣鏡複製品	1
平26.3.15	県内研究者（調査研究）	鉄製梵鐘研究復元品	1
		合 計	33

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「展示」(がんばろう！浜通り！)
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー 〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー 〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」
- ⑧「しらかわ歴史名場面」

常設展示替え一覧

コーナー	タイトル	開催期間	所蔵者	備考
みんなの研究ひろば	1 まほろんイベント「古代の鉄づくり」報告	平成25年4月1日～平成26年3月31日	館蔵	平成21年度より継続
	実技講座「古代の鍛冶体験」成果品(ペーパーナイフ)	平成25年4月1日～平成26年3月31日	館及び個人蔵	平成22年度より継続
	2 学芸員実習の成果(1)	平成25年4月1日～平成25年9月28日	館蔵	飯館村羽白C遺跡
	学芸員実習の成果(2)	平成25年9月29日～平成26年3月31日	館蔵	郡山市正直A遺跡
話題の遺跡	新地町山中B遺跡	平成25年4月1日～平成25年8月20日	館蔵	
	湯川村桜町遺跡(1)	平成25年8月21日～平成25年12月27日	館蔵	
	干支にちなんだミニ展示	平成25年12月28日～平成26年3月31日	館蔵	福島市御山千軒遺跡・白河市赤根久保遺跡・白河市佐平林遺跡
	湯川村桜町遺跡(2)	平成25年12月28日～平成26年3月31日	館蔵	
しらかわ歴史名場面	白河市赤根久保遺跡	平成25年4月1日～平成25年11月6日	白河市教育委員会	
	白河市西原遺跡	平成25年11月7日～平成26年3月31日	館蔵	
プロムナードギャラリー『ふくしまの宝物』	南相馬市鳥打沢A遺跡	平成25年4月1日～平成26年3月9日	館蔵	
	浪江町田子平遺跡	平成26年3月11日～平成26年3月31日	館蔵	
プロムナードギャラリー『がんばろう！浜通り！』	飯館村羽白C遺跡 他11遺跡(毎月展示替え)	平成25年4月1日～平成26年3月31日	館蔵	平成23年度より継続。浜通り地方の土器を展示して復興祈願。

⑨ 映像展示

「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え

平成25年度の展示替えは、別表一覧の通りである。年度当初に作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、来館者に白河地方の文化財を親しんでもらうため、さらに地域の生涯学習関係者と連携して、各市町村の発掘調査資料を中心に、話題性や地域性のある資料を積極的に掘り起こし、フレキシブルな展示を企画している。本年度は、2遺跡について紹介した。

◆白河市赤根久保遺跡

白河市(旧東村)に所在する縄文・平安時代の遺跡で、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されている。土師器杯には、灯明具に使用されたものと共に、当時としては珍しい墨書土器が多数発見されており、文字の内容から仏教の儀式を行っていたと考えられる。

◆白河市西原遺跡

白河市（旧東村）に所在する古墳時代から奈良・平安時代の集落遺跡で、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されている。古墳時代中期（南小泉式期）の代表的な土師器などの出土品を展示した。

2）みんなの研究広場

「みんなの研究広場」は、一般県民の歴史や文化財等に関する研究を積極的に紹介することで、県民と歴史・文化財等が近い存在であることを印象付ける特徴的コーナーであり、児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示する。

◆実技講座「古代の鍛冶体験」の成果品

古代の遺跡から出土した蕨手刀などの鉄製品をモデルとし、古代のモノづくりを体験する企画である。その成果品を「みんなの研究広場」で展示した。

このほかに、まほろんイベント「古代の鉄づくり」・学芸員実習の成果などを展示した。

3）話題の遺跡

県内の文化財情報を積極的に収集し、話題性に富んだ新鮮な展示を行う。特に企画展の展示内容と関連した企画し、展示室総体が連携するように努めると共に、関係の自治体や生涯学習施設と連携として進めている。

◆新地町山中B遺跡

浜通り地方北端の新地町に所在する縄文時代から江戸時代の遺跡である。特に、縄文時代中期初頭の土器は、関東地方の影響を強く受けており、東北南部と関東地方の交流があったことを物語っている。

◆湯川村桜町遺跡（1・2）

会津地方の弥生時代後期の遺跡として初めて発見された木製品（高床建物の部材や農耕具・井戸枠）などを2回に分けて展示した。

◆干支にちなんだミニ展示

平成26年の干支「午」にちなんで、福島市御山千軒遺跡や白河市（旧東村）赤根久保・同市佐平林遺跡から出土した馬型の形代・墨書土器「午」を展示した。

4）「ふくしまの宝物」

プロムナードギャラリーの「ふくしまの宝物」

のコーナーでは、歴史的に重要な一品をまほろん収藏品の中から抽出して展示している。今年度は2回の展示替えを行った。



「がんばろう！浜通り！」展示替えの様子
相馬市・段ノ原A遺跡「縄文土器 深鉢」

（3）展示資料の破損等

◆常設展示

展示レプリカの軽微な破損（来館者の接触によるもの）について、メンテナンスを行った。

◆野外展示

経年劣化による展示造形物の床・壁・柱などに生じた隙間やひび割れなどが、増加・拡大をしている。

（4）メンテナンス

破損した常設・野外展示資料のうち、特に軽微な部分について、展示担当の学芸員が修繕を行った。

また、専門業者に依頼した修繕箇所及び方法は、以下のとおり。

◆前方後円墳

石室入口の扉修繕を行った。

2. 企画展示

（1）特別企画展

「文化財復興展 救出された双葉郡の文化財Ⅰ」

会 期：平成25年4月1日（木）～6月9日（日）

（開催日数60日間）

観覧者数：6,276名

1）趣旨

2011年に発生した原子力災害により避難指示区域となっている双葉郡内の文化財は、福島県

被災文化財等救援本部などの手により平成24年度から救出活動が進められている。このうち、双葉町、大熊町、富岡町の各資料館内の文化財は、被災ミュージアム再興事業により、まほろんに設置された仮保管施設に搬送されている。これら3町の考古資料、民俗資料、歴史資料等を展示公開し、双葉郡の歴史と文化を広く県民に伝え、復興を祈念する企画である。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②双葉町の救出文化財

双葉町を代表する清戸迫横穴群や郡山五番遺跡の出土品、斎藤家の寄託品の漆製品を展示した。

③大熊町の救出文化財

縄文時代の砂出遺跡や道平遺跡の出土品、大堀相馬焼の大皿・徳利、昭和初期の鰻（こて）や炭火アイロン、版木や仏像などを展示した。

④富岡町の救出文化財

縄文時代の関根遺跡や弥生時代の毛萱遺跡、古墳時代の小浜代遺跡及び古墳群の出土品、多古藩（現在の千葉県）の陣屋図や掛け軸を展示した。

⑤エピローグ

3) 関連文化財講演会

4月27日（土）には、文化財講演会「被災文化財復興事業の取り組み」を開催した。

4) 成果と反省

各地に避難している方々が展示の見学に訪れ、ふるさとを懐かしみ、涙ぐむ来館者もおられた。

また、地形図や図表を拡大し、高齢の方々にも分かりやすい展示に心がけ、来館者からは好評であった。



「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」

(2) 指定文化財展

「ふくしまの重要文化財ⅩⅠ 古墳時代の馬具―いわき市中田横穴墓出土の馬具―」

後援：いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事業団

会期：平成25年7月20日（土）～9月23日（月）
（開催日数62日間）

観覧者数：5,471名

1) 趣旨

国史跡のいわき市「中田横穴墓」の考古資料を紹介する「指定文化財展」である。中田横穴墓から出土した馬具・武器・武具類などの金属製品や多くの遺物は、昭和58年に福島県の重要文化財に指定されている。

まほろんでは、平成17年から平成23年にかけて中田横穴墓から出土した馬具の復元制作研究を行い、当時の馬具の輝きを今に蘇らせた。

今回の展示は、中田横穴墓から出土した豊富な遺物とともに、まほろんで行った馬具の復元研究の成果を紹介した。また、関連する遺跡の資料を公開することにより、埋蔵文化財保護の重要性の関心を高め、県民一般の文化財保護の理解を深めた。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②いわき市中田横穴群

いわき市を代表する装飾横穴墓から出土した県の重要文化財に指定されている馬具を含め武器・武具類や土師器・須恵器・装飾品などの出土品を展示した。

③中田横穴出土馬具の復元品

復元製作研究によって製作した馬具を、白馬に装着して展示した。



「古墳時代の馬具―いわき市中田横穴墓出土の馬具―」

④白河市笹内古墳群

まほろんで所蔵する白河市(旧東村)の笹内古墳群から出土した須恵器・土師器・装飾品・人骨などの出土品を展示した。

⑤エピローグ

3) 関連文化財講演会

8月24日(土)には、文化財講演会「中田横穴墓と古墳時代の馬具」を開催した。

4) 成果と反省

復元された馬具を白馬に装着し、いわき市中田横穴墓や福島県内の装飾古墳の位置と画像を拡大して、一般来館者にも分かりやすい展示に心がけた。

「古墳時代の馬具―いわき市中田横穴墓出土の馬具―」 展示資料一覧

番号	資料名	時代	遺跡名	所蔵者
1	勾玉	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
2	管玉	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
3	棗玉	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
4	青銅製釧	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
5	青銅製釧	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
6	金銅製耳環	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
7	鉄芯金銅張耳環	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
8	鉄芯銀張耳環	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
9	鉄製門頭把頭	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
10	環頭把頭	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
11	金銅製靱尻金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
12	金銅製靱尻金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
13	鉄製門頭把頭	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
14	鉄製鉾身及び石突	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
15	鉄製石突	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
16	鉄製鉾身	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
17	鉄製石突	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
18	把金具勾金	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
19	鉄 鏝	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
20	鉄 鏝	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
21	鉄 鏝	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
22	鉄 鏝	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
23	鉄 鏝	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
24	鉄 鏝	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
25	挂甲小札	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
26	挂甲小札	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
27	鉸金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
28	鉸金具一式	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
29	金銅製馬鈴	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
30	金銅製小鈴	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
31	金銅製小鈴	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
32	鉄地金銅張雲珠	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
33	鉄地金銅張辻金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
34	鉄地金銅張辻金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
35	鉄地金銅張辻金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
36	鉄地金銅張飾り帯金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
37	鉄地金銅張飾り帯金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
38	鉄地金銅張飾り帯金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
39	鉄地金銅張飾り帯金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
40	鉄地金銅張飾り帯金具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
41	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
42	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
43	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
44	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
45	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
46	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
47	鉸 具	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
48	鉄地金銅張杏葉	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会

(3) まほろん収蔵資料展

「ダムに沈んだ遺跡たち―三春ダム内の遺跡―」
会 期：平成25年10月12日(土)～12月23日(日)
(開催日数63日間)

観覧者数：4,558名

1) 趣旨

まほろんに収蔵されている考古資料を新たな視点で紹介する「ダムに沈んだ遺跡たち」の第1弾。田村郡三春町に建設された三春ダム関連の収蔵資料を紹介する。

三春ダム水没地域内の遺跡からは、縄文時代中期後半～後期前半にかけて、複式炉・敷石住居・配石などの遺構が数多く発見されている。

番号	資料名	時代	遺跡名	所蔵者
49	鉄地金銅張杏葉	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
50	須恵器大甕	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
51	須恵器提瓶	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
52	青銅製珠文鏡	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
53	青銅製椀蓋	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
54	砥 石	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
55	紡錘車	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
56	ガラス製飾り環	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
57	ガラス製飾り環	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
58	ガラス製飾り環	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
59	金銅製飾板	古墳時代	中田横穴墓	いわき市教育委員会
60	鉄製轡	古墳時代	千代鶴横穴墓	いわき市教育委員会
61	鏡板付轡	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
62	杏 葉	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
63	辻金具	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
64	雲 珠	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
65	靱	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
66	締金具	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
67	飾帯金具	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
68	土師器甕	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
69	土師器甕	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
70	須恵器長頸瓶	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
71	須恵器長頸瓶	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
72	須恵器長頸瓶	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
73	須恵器甕	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
74	須恵器大甕	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
75	須恵器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
76	須恵器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
77	須恵器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
78	須恵器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
79	須恵器短頸壺	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
80	須恵器高坏	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
81	土師器甕	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
82	土師器短頸壺	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
83	土師器短頸壺	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
84	土師器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
85	土師器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
86	土師器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
87	土師器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
88	土師器杯	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
89	勾 玉	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
90	勾 玉	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
91	ガラス玉	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
92	土 玉	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
93	石製紡錘車	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
94	砥 石	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会
95	人 骨	古墳時代	笹内古墳群	福島県教育委員会

今回の展示では、これら石を使って作られた遺構に焦点を当て、大滝根川中流域で自然と関わりながら暮らした縄文時代の人びとの姿を紹介した。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②石の造形

四合内B・仲平・越田和遺跡から発見された複式炉や敷石住居を代表する縄文土器を展示した。併せて、福島県内の複式炉や敷石住居の分布や変遷を紹介した。

③祈りの形

土偶と文様は柴原A遺跡出土土偶、埋甕は柴原A・仲平・越田和遺跡の出土品、配石は柴原A・越田和遺跡発見の配石遺構を写真パネルで展示した。

④東北の配石文化

東北地方を代表する青森県青森市小牧野遺跡や秋田県鹿角市大湯遺跡の環状列石写真の大型パネルを展示した。

⑤エピローグ

3) 関連文化財講演会

11月9日（土）には、文化財講演会「三春町

の文化財」を開催した。

4) 成果と反省

東北地方を代表する青森県青森市小牧野遺跡や秋田県鹿角市大湯環状列石写真の大型パネルを使用し、三春ダム内の遺跡と比較して理解を深める展示とした。



「ダムに沈んだ遺跡たち—三春ダム内の遺跡—」

「ダムに沈んだ遺跡たち」三春ダム内の遺跡」展示資料一覧

番号	資料名	時代	遺跡名	遺構名
1	縄文土器	縄文時代中期	仲平遺跡	11号土坑
2	縄文土器	縄文時代中期	仲平遺跡	11号土坑
3	縄文土器	縄文時代中期	四合内B遺跡	11号住居跡
4	縄文土器	縄文時代中期	四合内B遺跡	1号住居跡
5	縄文土器	縄文時代中期	四合内B遺跡	10号住居跡
6	縄文土器	縄文時代中期	仲平遺跡	1号住居跡
7	縄文土器	縄文時代中期	仲平遺跡	2号住居跡
8	縄文土器	縄文時代中期	越田和遺跡	25号住居跡
9	縄文土器	縄文時代中期	越田和遺跡	28号住居跡
10	縄文土器	縄文時代中期	越田和遺跡	39号住居跡
11	縄文土器	縄文時代中期	越田和遺跡	32号住居跡
12	縄文土器	縄文時代後期	越田和遺跡	5号敷石住居跡
13	縄文土器	縄文時代後期	越田和遺跡	6号敷石住居跡
14	縄文土器	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
15	縄文土器	縄文時代中期	仲平遺跡	3号住居跡
16	縄文土器	縄文時代中期	仲平遺跡	2号住居跡
17	縄文土器	縄文時代中期	越田和遺跡	17号埋甕
18	縄文土器	縄文時代後期	越田和遺跡	12号埋甕
19	縄文土器	縄文時代後期	越田和遺跡	19号埋甕
20	縄文土器	縄文時代後期	越田和遺跡	13号埋甕
21	縄文土器	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
22	土偶	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
23	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
24	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
25	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
26	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
27	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
28	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
29	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層

番号	資料名	時代	遺跡名	遺構名
30	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
31	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
32	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
33	土偶（頭部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
34	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
35	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
36	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
37	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
38	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
39	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
40	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
41	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
42	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
43	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
44	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
45	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
46	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
47	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
48	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
49	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
50	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
51	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
52	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
53	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
54	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
55	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
56	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
57	土偶（胴部～脚部）	縄文時代後期	柴原A遺跡	遺物包含層
58	土偶	縄文時代後期	荒小路遺跡	遺物包含層

(3) 文化財復興展

「救出された双葉郡の文化財Ⅱ」

会 期：平成26年1月18日(土)～3月23日(日)
(開催日数56日間)

観覧者数：2,965名

1) 趣旨

本企画展は、福島県教育委員会が実施する「被災ミュージアム再興事業」の一環として実施した「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」に続く第2回目の文化財復興展である。

東日本大震災と原子力災害によって被災した双葉町・大熊町・富岡町の各資料館の再興と、地域の復興に資するため、福島県文化財センター白河館の仮保管施設で保管されている3町の文化財を展示公開した。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②双葉町の救出された文化財

江戸時代の甲冑・馬具や柄鏡・髪飾りを展示した。また、平成22年度に秋の企画展として双葉町歴史民俗資料館で開催された「時代をきりとった名機―国産カメラの歴史をたどる―」の展示風景を一部再現した。

③大熊町の救出された文化財

昭和58年に野上地区の諏訪神社の奉納された神楽獅子や、江戸時代頃のおみくじ・仏像・護符印などの比較的時代が新しい資料を展示した。

文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅱ」
展示資料一覧

No	資料名	時代	所有者
1	獅子頭(野上地区諏訪神社)	現代	大熊町民俗伝承館
2	おみくじ	不明	大熊町民俗伝承館
3	不動明王像	江戸時代	大熊町民俗伝承館
4	地藏菩薩像	江戸時代	大熊町民俗伝承館
5	仏像	江戸時代	大熊町民俗伝承館
6	護符印	不明	大熊町民俗伝承館
7	朱印版	不明	大熊町民俗伝承館
8	こけし9点(土湯系他)	1970年代	双葉町歴史民俗資料館
9	甲冑(黒漆塗胸板五枚胴具足)	江戸時代後期	双葉町歴史民俗資料館
10	甲冑(錆色塗伊予札段替胴具足)	江戸時代後期	双葉町歴史民俗資料館
11	馬具 鞍・鐙	江戸時代	双葉町歴史民俗資料館
12	和鏡(柄鏡「天下一但馬守」)	江戸時代	双葉町歴史民俗資料館
13	和鏡(柄鏡「藤原光長」)	江戸時代	双葉町歴史民俗資料館
14	和鏡(柄鏡「藤原光永」)	江戸時代	双葉町歴史民俗資料館
15	和鏡(懷中鏡「西村豊後守政重」)	江戸時代	双葉町歴史民俗資料館
16	かんざし3点	江戸時代末～明治時代	双葉町歴史民俗資料館
17	筭4点	江戸時代末～明治時代	双葉町歴史民俗資料館
18	国産カメラ29点(ルビナス「フレックスⅢA」他)	1954～1968	双葉町歴史民俗資料館
19	縄文土器深鉢(上ノ町B遺跡)	縄文時代中期	富岡町歴史民俗資料館
20	縄文土器深鉢(上ノ町B遺跡)	縄文時代後期	富岡町歴史民俗資料館
21	製鉄炉壁・羽口(後作B遺跡)	奈良～平安時代	富岡町歴史民俗資料館
22	庚申講道具	近～現代	富岡町歴史民俗資料館

④富岡町の救出された文化財

考古資料から、上ノ町B遺跡から出土した縄文土器深鉢と、奈良～平安時代の後作B遺跡から出土した製鉄炉を展示した。

民俗資料から、昭和時代まで受け継がれた「庚申講」の道具一式を展示した。

⑤エピローグ

3) 展示解説会等

1月18日(土)、2月22日(土)、3月22日(土)には、展示を担当した当館学芸員による展示解説会を開催した。

4) 成果と反省

時代が比較的新しく、現代でも身近な資料も展示することで、文化財への親しみを感じてもらうことができた。

また、各資料館の展示風景を部分的に再現し、懐かしさと郷土への理解をより深めてもらうことができた。



「救出された双葉郡の文化財Ⅱ」

(4) 特別展

震災復興・国立科学博物館コラボミュージアム in まほろん「まほろんに恐竜がやってきた!! ―そうだ! アロサウルスにあいに行こう!」

会 期：平成25年12月4日(水)～平成26年2月9日(日)(開催日数53日間)

観覧者数：4,054名

1) 趣旨

国立科学博物館では、平成23年に起きた東日本大震災により、甚大な被害を受けた福島県・宮城県・岩手県の被災地域において、現地の博物館支援の一環として、震災復興・国立科

学博物館コラボミュージアムを企画した。現地の博物館と連携しながら、展示や講演会、体験教室を行うことで、子どもたちを中心とした現地の人々を、元気づけることを目的としている。

当館では、国立科学博物館と連携しながら、アロサウルスと県内初公開となるマイアサウラの2体の大型恐竜の骨格標本をはじめとした恐竜の化石の展示や、国立科学博物館教育ボランティアによる体験講座、真鍋真氏による講演会を開催した。

2) 展示の構成と内容

国立科学博物館所蔵の恐竜化石を展示することで、自然史に関心のある方々にもまほろんを知っていただく機会となるように腐心した。

また、12月4日の公開初日は、アロサウルス組み立て作業の見学も行った。12月4日からの展示資料は、アロサウルス実物骨格標本、マイアサウラ実物骨格標本、フタバズキリュウの産状レプリカ、ティラノサウルスの児頭骨レプリカ、トリケラトプスの児頭骨レプリカ、ハドロサウルス類の顎の実物化石であった。

1月12日からは、タッチ化石（ステゴサウルスの上腕骨と竜脚類の大腿骨）、恐竜パズルの展示もあわせて行った。

3) 関連行事

①講演会 「アロサウルスってどんな恐竜？」

- ・実施日：平成26年1月12日（日）
- ・講師：真鍋真氏（国立科学博物館研究主幹）
- 聴講者数：62名

②体験講座「アンモナイト・恐竜の爪をつくろう！」

- ・実施日：平成26年1月12日（日）
- ・講師：当館職員 ・参加者数：68名
- ・実施日：平成26年1月19日（日）
- ・講師：当館職員 ・参加者数：60名

③「国立科学博物館教育ボランティアによる体験教室」

「飛ばしてみよう、いろんなタネ」

- ・実施日：平成26年1月12日（日）
- ・講師：国立科学博物館教育ボランティア
- ・参加者数：20名

「葉っぱを知ろう、葉っぱで遊ぼう」

- ・実施日：平成26年1月12日（日）
- ・講師：国立科学博物館教育ボランティア

- ・参加者数：45名
- 「鳥の絵キーホルダーづくり」
- ・実施日：平成26年1月12日（日）
 - ・講師：国立科学博物館教育ボランティア
 - ・参加者数：52名
- 「恐竜の歯のレプリカづくり」
- ・実施日：平成26年1月19日（日）
 - ・講師：国立科学博物館教育ボランティア
 - ・参加者数：28名

4) 成果と反省

国立科学博物館との連携企画は初めてであり、ましてや恐竜化石という今まで取り扱ったことのない資料の展示であったために、展示準備や展示方法など試行錯誤しながらの展示であった。

国立科学博物館教育ボランティアなどの各種体験は、これからのまほろんの体験活動やイベントにおいて、良い示唆を与える体験活動であった。



震災復興・国立科学博物館コラボミュージアムinまほろん

（5）まほろん移動展

本年度は、指定文化財展「ふくしまの重要文化財ⅩⅠ 古墳時代の馬具―いわき市中田横穴墓出土の馬具―」を、中田横穴墓の発見地であるいわき市考古資料館で開催した。

会 期：平成25年10月19日（土）～12月23日（月）
（開催日数57日間）

観覧者数：1,854名

会 場：いわき市考古資料館展示室

共 催：いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事業団

内 容：まほろんで復元した馬具を白馬に装着し、中田横穴墓の出土品を中心に、いわき市所在の古墳や横穴墓の発掘成果品を比較展示した。

3 講演会等

(1) 館長講演会

平成25年度は、シリーズ「北日本の縄文文化について～北海道・北東北縄文遺跡群世界遺産登録に向けて～」をテーマとして5回の館長講演会を開催した。

- ・平成25年5月19日（日）第1回
「縄文時代とはどんな時代？」43名
- ・平成25年7月20日（土）第2回
「縄文文化と社会（1）」41名
- ・平成25年9月21日（土）第3回
「縄文文化と社会（2）」33名
- ・平成25年11月16日（土）第4回
「縄文人と弥生人」26名
- ・平成26年1月18日（土）第5回
「JOMONには世界遺産の価値があるか？」
38名

(2) 文化財講演会

企画展などとタイアップして、今年度は以下の講演会を実施した。

①「被災文化財復興事業の取り組み～これまでの経緯と残された課題～」をテーマとして、福島大学行政政策学類准教授・ふくしま歴史資料保存ネットワーク代表の阿部浩一氏が講演を行った。

- ・実施日：平成25年4月27日（土）21名

②「小峰城の歴史と震災復興」をテーマとして、白河市建設部都市政策室文化財課主査の田原由男氏が講義を行った。

- ・実施日：平成25年6月8日（土）33名

③「中田横穴墓と古墳時代の馬具～中田装飾横穴と副葬品～」をテーマとして、福島県考古学会顧問の馬目順一氏が講演を行った。

- ・実施日：平成25年8月24日（土）33名

④「白河地方の考古学研究」をテーマとして、白河市建設部都市政策室文化財課主幹の鈴木功氏が講演を行った。

- ・実施日：平成25年9月14日（土）25名

⑤「中世陶器の窯について」をテーマとして、当館運営協議会委員の藤沼邦彦氏が講演を行った。

- ・実施日：平成25年10月19日（土）9名

⑥「三春町の文化財」をテーマとして、三春町教育委員会生涯学習課主任主査・歴史民俗資料館副館長の平田禎文氏が講演を行った。

- ・実施日：平成25年11月9日（土）11名

⑦「白河関と東山道」をテーマとして、福島県考古学会顧問の鈴木啓氏が講演を行った。

- ・実施日：平成25年12月21日（土）70名

⑧「白河だるまについて～「白河だるまと全国のだるま」展の成果から～」をテーマとして、白河市建設部都市政策室文化財課主任学芸員の内野豊大氏が講義を行った。

- ・実施日：平成26年1月25日（土）14名

(3) 文化財に関する上映会

文化財に関する上映会は、文化財記録ビデオの上映及び当館学芸員の説明を実施した。

「無形民俗文化財保存伝承活動 技の記録」

- ・実施日：平成26年2月8日（土）5名

文化財講演会状況

名 称	講 師	実施日	受講者数	場 所
館長講演会 第1回「北日本の縄文文化について 縄文時代とはどんな時代？」	菊池徹夫館長	5月19日	43名	まほろん講堂
館長講演会 第2回「北日本の縄文文化について 縄文文化と社会（1）」	菊池徹夫館長	7月20日	41名	まほろん講堂
館長講演会 第3回「北日本の縄文文化について 縄文文化と社会（2）」	菊池徹夫館長	9月21日	33名	まほろん講堂
館長講演会 第4回「北日本の縄文文化について 縄文人と弥生人」	菊池徹夫館長	11月16日	26名	まほろん講堂
館長講演会 第5回「北日本の縄文文化について JOMONには世界遺産の価値があるか？」	菊池徹夫館長	1月18日	38名	まほろん講堂
「被災文化財復興事業の取り組み～これまでの経緯と残された課題～」	阿部浩一（福島大学行政政策学類准教授・ふくしま歴史資料保存ネットワーク代表）	4月27日	21名	まほろん講堂
「小峰城の歴史と震災復興」	田原由男（白河市建設部都市政策室文化財課 主査）	6月8日	33名	まほろん講堂
「中田横穴墓と古墳時代の馬具～中田装飾横穴と副葬品～」	馬目順一（福島県考古学会 顧問）	8月24日	33名	まほろん講堂
「白河地方の考古学研究」	鈴木 功（白河市建設部都市政策室文化財課 主幹）	9月14日	25名	まほろん講堂
「中世陶器の窯について」	藤沼邦彦（当館運営協議会委員）	10月19日	9名	まほろん講堂
「三春町の文化財」	平田禎文（三春町教育委員会）	11月9日	11名	まほろん講堂
「白河関と東山道」	鈴木 啓（福島県考古学会 顧問）	12月21日	70名	まほろん講堂
「白河だるまについて～「白河だるまと全国のだるま」展の成果から～」	内野豊大（白河市建設部都市政策室文化財課 主任学芸員）	1月25日	14名	まほろん講堂
文化財ビデオ上映会「無形民俗文化財保存伝承活動 技の記録」		2月8日	5名	まほろん講堂

4. 体験学習

(1) 常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

個人来館者を対象とし、体験活動室で実施する体験学習メニューである。

平成24年度までの実施状況を踏まえて、季節や当館の行事予定を考慮して年間計画を作成した。通年体験できる「勾玉・管玉づくり」や「火おこしに挑戦しよう」に加え、2週間で入れ替わる11種類の期間限定メニューを実施した。平成25年度の体験者数は7,986人となり、前年度の体験者数よりも480人増加した。これは、人気のあるメニューを複数回行ったことなどが挙げられる。



体験活動室メニュー「勾い袋をつくろう」

体験活動室メニューの実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
勾玉づくり	2,234名	アンギン編みに挑戦しよう	13名
管玉づくり	58名	ミニチュア土器・埴輪をつくろう	368名
火おこしに挑戦しよう	3,497名	七夕飾りをつくろう	70名
ガラス玉をつくろう	263名	昔の遊び	296名
勾い袋をつくろう	86名	切り絵に挑戦しよう	248名
時代衣装を着てみよう	666名	和紙でつるし雛を折ろう	17名
組みひもをつくろう	139名	拓本に挑戦しよう	31名

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

小中学校の夏休み期間、まほろんイベントの実施日、特別展示期間において、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応体験メニューの実施状況

内 容	参加人数	内 容	参加人数
弓矢・やり投げ	1,883名	昔のお菓子づくり	861名
バックヤードツアー	725名	石臼体験	142名
紙かぶと	206名	缶バッジ	418名
昔の遊び	64名	木こり	55名

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、火おこし、土器さわりなど8メニューを実施した。

(2) 募集型体験メニュー

1) 実技講座

昔のさまざまな“モノづくり”を体験することで、文化財に対する理解を深めることを目的として実施した。

平成25年度は、5月の「土器づくり初級編Ⅰ」を皮切りに、13講座について20回実施した。なお、実技講座の名称、日程、参加者数は、別表のとおりである。

各講座の定数は10～20名で、家族を対象としたものでは10組となっている。「鹿の角で装飾品をつくろう」、「家族で門松をつくろう」などは、応募人数が定数を上回った。

実技講座実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	土器づくり初級編Ⅰ①	5月11日	12名
2	家族でお茶わんをつくろう①	6月8日	15名
3	土器づくり初級編Ⅰ②	6月22日	12名
4	カラムシから布をつくろう①	6月29日	10名
5	家族でお茶わんをつくろう②	7月13日	17名
6	カラムシから布をつくろう②	7月20日	9名
7	古代の染色にちょうせん	8月3日	22名
8	カラムシから布をつくろう③	8月31日	7名
9	鹿の角で装飾品をつくろう	9月21日	13名
10	むかしの料理をつくろう	10月5日	7名
11	古代の竹笛をつくろう	10月19日	5名
12	縄文土器づくり初級編Ⅱ①	11月9日	10名
13	ひょうたんから容器をつくろう	11月23日	12名
14	古代の印章をつくろう	12月7日	11名
15	縄文土器づくり初級編Ⅱ②	12月14日	3名
16	家族で門松をつくろう	12月21日	35名
17	古銭をつくろう	1月25日	13名
18	縄文土器づくり上級編①	2月1日	11名
19	縄文土器づくり上級編②	2月2日	10名
20	ガラスと組紐でアクセサリーをつくろう	2月22日	8名

2) まほろんイベント

当館の業務や文化財に関心を持ってもらうことで、新たな地域・年齢層を開拓し、さらなる来館者増を目指すために実施した。

①GW まほろんまつり

弓矢体験、紙かぶとづくり、もみぎりによる火おこし体験などを実施した。

②まほろん夏まつり

古代3種（火おこし、弓矢、やり投げ）競技、すり染め、かき氷体験などを実施した。



まほろん夏まつり

③まほろんを描こう

まほろんの様々な施設や展示物を題材として、参加者に絵画を描いてもらった。作品は来館者の投票により優秀作品を決定し、表彰した。

④まほろん秋まつり

昔の遊び、昔のお菓子づくり、缶バッジづくりなどを実施した。

⑤まほろんもちつき大会

県中地区の餅つき唄にあわせて千本杵による餅つき体験を行った。体験者には試食用の餅を振る舞った。また、子供映画会や昭和の遊びなども行った。

⑥第10回双六大会

盤双六を用いて、トーナメント方式の大会を実施した。

⑦まほろん冬まつり

昔の遊び、綿あめづくり体験、バックヤードツアーなどを実施した。

⑧第8回毬杖大会

古代から中世にかけて行われたホッケーのような遊びで、3年ぶりに開催した。

まほろんイベント実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	GWまほろんまつり	5月3日～6日	1,339名
2	まほろん夏まつり	7月28日	346名
3	まほろんを描こう	9月14日～16日	33名
4	まほろん秋まつり	11月4日	483名
5	もちつき大会	12月1日	946名
6	第10回 双六大会	1月11日	23名
7	まほろん冬まつり	2月16日	24名
8	第8回 毬杖大会	3月15日	12名

3) まほろん森の塾

塾生（小学4～6年生、中学生から募集）が、年間を通じて昔の暮らし・技術について体験することで、自らが生きる力をわかりやすく、親しみやすく身につけることを目的として実施した。平成25年度は8名が登録、「那須の古墳を探検しよう」をメインテーマとして、事前学習・学習発表を含め6回実施した。

まほろん森の塾実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	結団式、大昔の土器づくり	5月19日	7名
2	那須の古墳を調べてみよう、土器の野焼き	6月22日	8名
3	那須の古墳を探検しよう	7月13日	5名
4	那須の古墳探検発表会	9月21日	4名
5	古代の料理をつくろう	10月19日	6名
6	古代の装身具をつくろう、解団式	12月14日	5名



まほろん森の塾

(3) 館外体験学習支援事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とし、当館職員が会場となる施設へ出向いて（ただし、「ネットでまほろん」を除く）、地域の歴史を伝え、体験活動を行なう。体験したメニューは、勾玉づくり、火おこし体験、弓矢体験、土器づくりなどである。

以下、本事業の各プログラムの概要と平成25年度の成果について述べる。

おでかけまほろん

No.	団 体 名	学年・科目	体 験 内 容	実施日	人数
1	郡山市穂積小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	4月16日（火）	16名
2	福島市東湯野小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし	4月17日（水）	11名
3	郡山市ザベリオ学園小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	4月18日（木）	44名
4	伊達市小手小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	4月23日（火）	6名
5	会津若松市永和小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり	4月25日（木）	27名
6	福島市飯坂小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり	4月26日（金）	48名
7	須賀川市稲田小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月1日（水）	43名
8	浅川町山白石小学校	小5・6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	5月2日（木）	10名
9	本宮市岩根小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月8日（水）	48名
10	田村市関本小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢・時代衣装	5月9日（木）	13名
11	伊達市大枝小学校	小1・2・4～6年、総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月10日（金）	18名
12	郡山市緑ヶ丘第一小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月14日（火）	157名
13	いわき市好間第四小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月15日（水）	11名
14	福島県立須賀川養護学校	中1・3年、総合・社会	勾玉づくり	5月16日（木）	4名
15	田村市古道・岩井沢小学校	小6年、社会	土器さわり	5月21日（火）	29名
16	郡山市芳賀小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	5月23日（木）	98名
17	いわき市四倉小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	5月29日（水）	56名
18	福島市蓬萊東小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	5月31日（金）	56名
19	いわき市上達野小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり	6月6日（木）	26名
20	いわき市田人第一・貝泊小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月7日（金）	12名
21	二本松市旭小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月12日（水）	15名
22	福島県立雙学校福島分校	小4～6年、社会	火おこし	6月14日（金）	11名
23	二本松市石井小学校	小6年、社会	管玉・土器さわり	6月19日（水）	30名
24	須賀川市阿武隈小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	6月27日（木）	88名
25	伊達市小国小学校	小2～6年、総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	6月28日（金）	32名
26	本宮市本宮小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	7月11日（木）	73名
27	石川町母畑小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	7月17日（水）	11名
28	福島市蓬萊小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	8月29日（木）	64名
29	伊達市堰本小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	8月30日（金）	18名
30	田村市美山小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	9月3日（火）	18名
31	田村市船引小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	9月5日（木）	128名
32	伊達市上保原小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	9月11日（水）	55名
33	福島市茂庭小学校	小2～6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	9月20日（金）	7名
34	三春町中妻小学校	小5・6年	土器さわり・火おこし・弓矢	9月27日（金）	23名
35	福島市南向台小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	10月22日（火）	27名
36	田村市緑小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり	10月25日（金）	17名
37	いわき市差塩小学校	小1～6年、総合・社会	勾玉づくり・土器さわり	11月1日（金）	7名
38	郡山市喜久田小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	11月6日（水）	46名
39	福島県立会津養護学校竹田分校	中1～3	勾玉づくり・土器さわり	11月14日（木）	6名
40	喜多方市駒形小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	11月19日（火）	13名
41	福島市水原小学校	小1～6年、総合・社会	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢	11月22日（金）	21名
42	川俣町川俣南小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり	12月10日（火）	26名
43	伊達市伊達東小学校	小6年、社会	勾玉づくり・土器さわり・弓矢	12月18日（水）	34名
44	鏡石町鏡石第二小学校	小4～6年、総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	1月28日（火）	84名
45	福島県立石川養護学校	高1～3、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	1月31日（金）	60名

出前講座

No.	団 体 名	学年・年齢	体 験 内 容	実施日	人数
1	田村市都路公民館	小1～6	勾玉づくり・火おこし・弓矢	6月15日（土）	49名
2	須賀川市西袋公民館	60～75歳	勾玉づくり・土器さわり	7月25日（木）	45名
3	会津若松市河東公民館	小1～6	勾玉づくり・土器さわり・火おこし・弓矢	8月3日（土）	20名
4	只見町教育委員会	小1～中3（親子）	火おこし・アンギン	8月17日（土）	14名
5	大玉村あだたらふるさとホール	小1～5（親子）	勾玉づくり・弓矢	8月18日（日）	11名
6	喜多方市中央公民館	小2～6	管玉づくり・土器さわり	9月7日（土）	14名
7	会津若松市一箕公民館	小4～6	勾玉づくり・土器さわり・火おこし	9月8日（日）	22名
8	会津若松市大戸公民館	小1～5（親子等）	勾玉づくり・土さわり	10月20日（日）	28名
9	塙町公民館	小1～4	勾玉づくり・土さわり・弓矢・火おこし	11月16日（土）	40名

まるごとまほろん

No.	団 体 名	学年・年齢	体 験 内 容	実施日	人数
1	白河市表郷総合運動公園	小学生・一般	土器さわり・缶バッジづくり	9月22日（日）	185名
2	国立那須甲子青少年自然の家	小学生・一般	火おこし・弓矢	9月23日（月）	392名
3	大玉村あだたらふるさとホール	小学生・一般	土器さわり・火おこし・弓矢	10月26・27日（土・日）	283名
4	国立磐梯青少年交流の家	小学生・一般	弓矢	10月26日（土）	178名

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、本年度は別掲の45箇所47校で実施した。

学校の先生と当館職員が連携して授業を行い、学校周辺の歴史や古代の人々の暮らし・知恵・技術を学ぶ体験活動を行うものである。



おでかけまほろん「土器さわり体験」

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子供クラブ」や「高齢者学級」などを対象としたプログラムである。本年度は、大玉村・田村市・須賀川市・埴町・会津若松市・喜多方市・只見町の9箇所で開催した。

3) まるごとまほろん

地域住民を対象として、その地域で発掘された考古資料の展示や体験学習などを行うプログラムである。本年度は、国立磐梯青少年交流の家や大玉村あだたらふるさとホールなどで主催した4箇所のイベントに参加した。

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や障がいを持っているため来館での活動が困難な学校を対象としたプログラムである。授業は、当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で行うものであるが、今年度は申し込みがなかったため、実施できなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

4月からのアクセス数の推移を別表に示した。年間総アクセス数は43,995件で、東日本大震

災の影響で減少した平成23年度より3,760件(9.3%)増加したが、平成22年度(46,550件)には及ばなかった。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、5月に50万件の大台を超えた。

ホームページアクセス数一覧

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,201	497,477
5月	4,790	502,267
6月	3,727	505,994
7月	3,579	509,573
8月	3,724	513,297
9月	3,230	516,527
10月	3,448	519,975
11月	3,614	523,589
12月	3,456	527,045
1月	3,937	530,982
2月	3,026	534,008
3月	3,263	537,271
合計	43,995	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成25度のアクセス数を別表に示した。文化財データベースの年間アクセス数は631,342件で、前年度の324,906件の2倍近い大幅増となった。これにより、東日本大震災以降に見られた減少傾向が一気に改善され、過去最高だった平成21年度の520,287件をも上回った。

その内訳を見ると、遺跡・遺物・写真・文献のすべてのデータベースで、前年度を上回るアクセス数があった。特に遺物・写真の各データベースが、それぞれ前年度の2.6倍に達している。

月別のアクセス件数を見ると、8月は前年度の3.5倍、2月は2.6倍、3月は3.8倍と、夏季と年度末にアクセスが集中する時期が見られた。平成25年度のアクセス数の急増の要因としては、東日本大震災の復興関連事業の急増等により、遺跡や遺物等の埋蔵文化財情報へのニーズが急増した可能性が考えられる。

(2) データの入力

平成24年度に遺跡調査部の文化財センター整備担当で作成されたデータの入力を行った。新規入力数(テキスト)を別表として示したが、合計入力数は2,446件となっている。

データベースアクセス数一覧

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	22,918	7,593	10,556	1,799	2,970
5月	23,188	7,352	10,143	1,764	3,929
6月	22,646	6,320	10,316	1,722	4,288
7月	31,925	10,404	13,684	2,722	5,115
8月	106,002	44,298	44,497	7,755	9,452
9月	55,477	15,017	26,721	6,500	7,239
10月	39,687	13,204	17,381	3,543	5,559
11月	31,949	15,148	11,902	1,362	3,537
12月	48,779	16,860	22,450	4,709	4,760
1月	56,974	21,153	24,816	4,874	6,131
2月	77,034	27,747	35,692	5,845	7,750
3月	114,763	58,237	42,613	5,219	8,694
合計	631,342	243,333	270,771	47,814	69,424

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計
遺跡（基本データ）	6		13,841
遺跡（調査台帳）	109		4,416
遺物	1,700		253,074
遺物写真	0		20,245
写真	631		56,142
文献	0		17,506
合 計	2,446	0	365,224

3. まほろん通信の発行

平成25年度は、年4回発行した。発行日は、4月15日、7月1日、10月1日、1月15日で、各4,000部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

- （1）まほろん通信 vol.47（4月15日発行）
 - ・震災復興とまほろん
 - ・まほろん冬まつりの様子
 - ・企画展示案内（文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅰ」）
 - ・文化財研修・講演会のご案内（4～6月の文化財研修・講演会について）
 - ・平成24年度の入館者数
 - ・まほろんからのお知らせ（5月のまほろんイベント）
 - ・今年度の行事予定

- （2）まほろん通信 vol.48（7月1日発行）
 - ・ゴールデンウィークまほろんまつり
 - ・体験学習（実技講座「土器づくり初級編Ⅰ」・

「まほろん森の塾」）

- ・夏のまほろん（まほろんイベント「まほろん夏まつり」・夏休み特別体験メニュー）
- ・企画展示案内（指定文化財展「ふくしまの重要文化財 XI 古墳時代の馬具―いわき市中田横穴墓出土の馬具―」）
- ・1学期のおでかけまほろん
- ・文化財研修・講演会のご案内（7～9月の文化財研修・講演会について）
- ・シリーズ収蔵品紹介16（管内37号横穴墓出土の馬具）
- ・まほろんからのお知らせ（夏休みは無休です）

（3）まほろん通信 vol.49（10月1日発行）

- ・第13期まほろん森の塾
- ・夏まつりの様子
- ・イベント「まほろんを描こう」
- ・研修だより（教職員等発掘体験研修）
- ・秋のまほろん（イベント「まほろん秋まつり」・10月～12月の実技講座について）
- ・企画展示案内（収蔵資料展「ダムに沈んだ遺跡たちⅠ―三春ダム内の遺跡―」）
- ・文化財研修・講演会のご案内（10～12月の文化財研修・講演会について）
- ・シリーズ収蔵品紹介17（柴原A遺跡出土の土瓶形（注口）土器）
- ・まほろんからのお知らせ（まほろんショップから）

（4）まほろん通信 vol.50（1月15日発行）

- ・まほろんもちつき大会
- ・体験学習（実技講座「むかしの料理をつくろう」・実技講座「古代の竹笛をつくろう」）
- ・企画展示案内（文化財復興展「救出された双葉郡の文化財Ⅱ」）
- ・イベントのご案内（イベント「まほろん冬まつり」・イベント「第8回毬杖大会」・1月～3月の実技講座について）
- ・「まほろんに恐竜がやってきた」開催中
- ・文化財研修・講演会のご案内（1～3月の文化財研修・講演会について）
- ・本年度のおでかけまほろん
- ・まほろんからのお知らせ（まほろんショップから）

6 文化財に関する研修事業

1 研修事業の概要

平成25年度の研修は、期日指定の基礎研修5回、専門研修4回、臨時的研修3回の合計12回を実施した。研修を実施した日数は述べ19日、研修の参加者は424人である。

2 研修実施状況

平成25年度に実施した研修の参加者の職業別内訳は以下のとおりである。市町村等で文化財の保護に携わる職員は、187人で全体の44%を占めている。一般人・学生も187人で44%であった。教職員の参加者は32人（8%）、文化財関係の市民ボランティアは14人で（3%）であった。

（1）基礎研修

考古学基礎講座などを5回実施した。

「考古学基礎講座」は、文化財や考古学に関する基礎知識を学ぶ講座である。「考古学基礎講座Ⅰ」は、まほろんで収蔵する考古資料の中で、基準になる資料をもとに、各時代の基礎知識を学ぶ講座である。今回は当館職員が、縄文時代前期後半の資料を取り上げた。

「文献資料と地方史研究」は、文献資料を通して県内の地方史を学ぶ研修である。今回は文献資料による中世城郭研究をテーマに、福島県立博物館の高橋充氏が古絵図や古文書・記録などが、城郭研究にどのように活用できるのかについて講義を行った。

「教職員等発掘調査体験研修」は、主に教職員を対象に例年夏休みの期間に開催しているもので、今回は、二本松市トロミ遺跡の発掘調査

文化財研修状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	考古学基礎講座Ⅰ 「収蔵資料（縄文時代）」	國井秀紀（当館主任学芸員）	5月25日	14名	館内
	文献資料と地方史研究 「文献資料による中世城郭研究」	高橋充（福島県立博物館学芸員）	6月22日	29名	館内
	教職員発掘調査体験研修	石本弘（当館専門学芸員）・ 稲村圭一（当館主任学芸員）	8月6日～8日	のべ36名	二本松市
	考古学基礎講座Ⅱ 「ふくしまの宝物(関和久官衙遺跡の瓦)」	眞保昌弘（栃木県那珂川町教育委員会）	11月23日	14名	館内
	無形の文化財研修 「民俗芸能の復興」	大山孝正（当館主任学芸員）	2月1日	9名	館内
専門研修	文化財保護指導者研修会	日下部善己（当館運営協議会委員）ほか	9月4日～5日	のべ165名	国見町
	考古学と関連科学 「出土資料の保存処理」	米村祥央（東北芸術工科大学）	10月26日	10名	館内
	専門考古学講座Ⅲ 「古墳時代の資料の見方」	石本弘（当館専門学芸員）	12月14日	24名	館内
	史跡整備研修 「阿津賀志山防塁の整備」	木本元治（国見町文化財専門員）	2月22日	12名	館内
特別研修	特別研修 博物館学外実習	当館職員	9月25日～29日	のべ26名	館内
	臨時職員派遣研修 「国見町ふるさと歴史教室」	当館職員	12月22日	53名	国見町
	臨時職員派遣研修 「発掘調査から見た平田村」	当館職員	1月23日	32名	平田村

現場を会場とした。講師は当館職員が務め、現地での発掘調査の方法や市内の史跡や資料館の見学を実施した。

「考古学基礎講座Ⅱ」は、「ふくしまの宝物」をシリーズテーマとし、県内出土の考古資料をもとに、考古学の基礎知識を学ぶ講座である。今回は、栃木県那珂川町教育委員会の眞保昌弘氏が、関和久官衙遺跡の瓦を中心に、共通する文様の波及を説明しながら、古代陸奥国の形成について講義を行った。

「無形の文化財研修」は、無形の文化財の基礎知識と調査方法を学ぶ研修である。今回は、当館職員が東日本大震災と原発事故で被災した福島県内の民俗芸能の復興に向けた動きと、存続・継承のための諸記録について、具体的な事例をもとに講義した。



考古学基礎講座Ⅱ

（2）専門研修

文化財保護指導者研修会など4回実施した。

「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員を対象として毎年会場を変えて行う研修会である。今回は国見町の施設や遺跡・史跡を会場として、当館運営協議会委員の

日下部善己氏の講演、国見町文化財専門員の本本元治氏や同町教育委員会生涯学習課主事の大栗行貴氏の事例報告、福島県教育庁文化財課副課長の長島雄一氏の講義や、阿津賀志山防塁跡などの史跡の見学を実施した。

「考古学と関連科学」では、「出土資料の保存処理」をテーマとし、東北芸術工科大学の米村祥央氏により、脆弱遺物に対する保存処理の役割とその方法が解説された。

「専門考古学講座」では、古墳時代の土師器の型式変化について、器形や製作技法の視点から当館職員が解説した。

「史跡整備研修」では、国見町文化財専門員の本本元治氏により、阿津賀志山防塁の整備事業について解説された。

（３）臨時的研修

上記のほか、研修開催の要望に応え、表25に示す3件の研修を実施した。



専門考古学講座Ⅲ

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 復元品製作研究

鏡箱に収納されていたとみられる状態で石川郡玉川村栗木内遺跡から出土した平安時代の鏡（八稜鏡）について、平成24・25年度の2カ年で復元品製作を実施することとし、平成25年度は、八稜鏡と鏡箱の復元品製作を実施した。

2. 体験学習研究

兵庫県立考古博物館で開催の「第6回考古博・秋まつり」に、「古代の木こり体験」で参加するとともに、他県の古代体験プログラムを

調査した。

3. 研究紀要

学芸員の館業務や館収蔵資料に関する研究の成果は、『研究紀要2013』として編集・発行した。



復元品製作「八稜鏡と鏡箱」

8 ボランティア運営事業

1. 募 集

第2期の指定管理者選定の後、新しい「まほろんボランティア」の募集を行っている。

申し込み資格は、①募集時点で18歳以上（高校生は除く）、②無償で活動できる方（保険料は当館負担）、③毎月2日間以上（1日2時間程度）活動できる方である。

2. 登 録

当館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」とする。

個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成25年度登録者数		43名 (男性27名・女性16名)
内訳		
1. 最年長	85歳	
2. 最年少	24歳	
3. 平均年齢	66歳	(男66歳、女65歳) (平成26年3月31日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説

- 体験学習(実技講座・団体等)の支援
- イベント(もちつき大会等)の支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー
- アンギン編み

4. 受け入れ体制

当館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、4月13日(土)、10月12日(土)、3月29日(土)にまほろんボランティア連絡会を開催した。



ボランティアによるアンギン編みの解説

9 その他

1. 年報2013の発行

当館の平成24年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関として、年2回開催している。

なお、平成25年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：前弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：前二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：前郡山女子大学准教授、再任
- ・和知 延：白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・新山 雄次：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任
- ・鈴木 且雪：西白河小中学校長連合協議会長、新任

(1) 第1回運営協議会

日時：平成25年9月7日(土)

場所：会議室

議事

- ・平成24年度白河館の事業実績について
- ・平成25年度白河館の事業について
- ・平成24年度来館者アンケートの結果について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

日時：平成26年3月15日(土)

場所：会議室

議事

- ・平成25年度白河館の運営状況について
- ・平成26年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館学学外実習

県内の大学生、県内出身の大学生を対象として博物館学学外実習をおこなった。

4. 被災ミュージアム再興事業

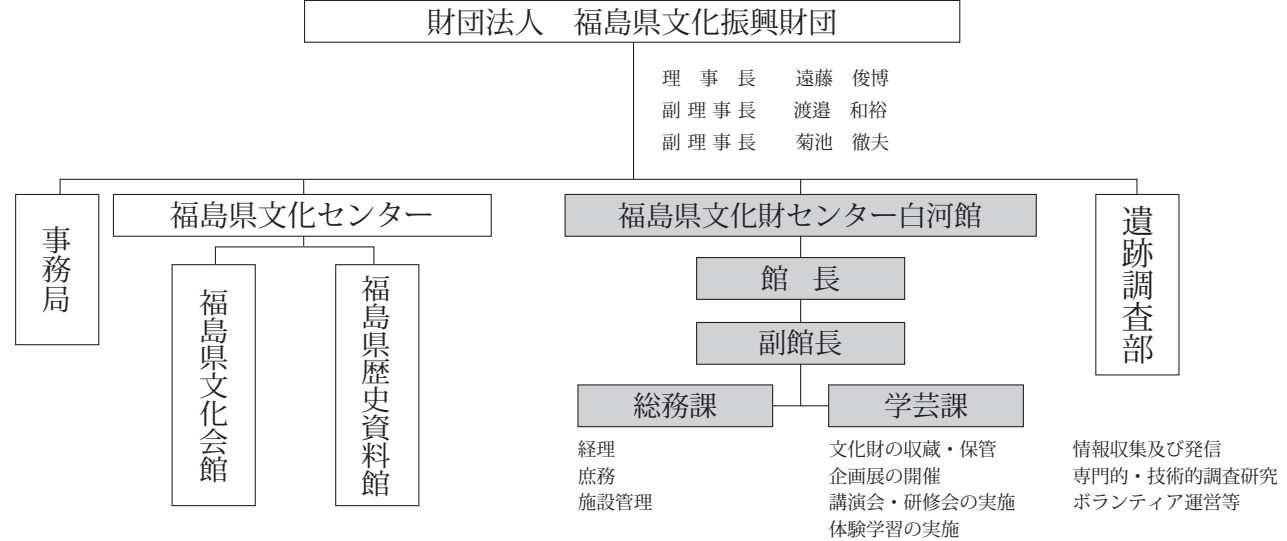
福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

これは、原子力災害によって避難指示区域となっている双葉郡内の文化財等を、まほろん敷地内に設置された仮保管施設に移送し、整理・保全作業を行うものである。

また、企画展において、整理した資料の公開を行っている。

第3章 平成25年度の組織と予算

1 組 織



在籍職員名簿

職 名		氏 名	職 名		氏 名
館 長		菊 池 徹 夫	学 芸 課	主任学芸員	國 井 秀 紀
副 館 長		野 川 清 和		主任学芸員	大 山 孝 正
総務課	課長（兼務）	野 川 清 和		主任学芸員	稲 村 圭 一
	副 主 幹	鈴 木 智 子		主任学芸員	三 浦 武 司
	主 査	佐 藤 貴 司		主任学芸員	山 田 英 明
	事務補助員	鈴 木 智 子		学芸員	山 本 友 紀
	物品販売補助員	水野谷 聡 美		学芸員	和 田 伸 哉
学芸課	課 長	芳 賀 英 一		アテンダント	佐 藤 あかね
	主 幹	山 岸 英 夫		アテンダント	河 西 久 子
	副主幹兼専門学芸員	香 川 慎 一		アテンダント	大 木 令 子
	専門学芸員	石 本 弘		アテンダント	独 鈺 亜由美
	専門学芸員	高 橋 信 一		アテンダント	山 田 文 恵
	専門学芸員	吉 野 滋 夫	職員総数 24名		

(平成26年3月31日現在)

2 予 算

管理運営費会計		物品販売会計	
<収入>		<収入>	
・ 指定管理者委託料	240,984,000円	・ 事業収入（物品販売収入）	3,805,475円
・ 雑収入	412,400円	・ 自動販売機手数料	59,568円
・ 合計	241,396,400円	・ 合計	3,865,043円
<支出>		<支出>	
・ 文化財センター白河館管理運営費	241,396,400円	・ 事業費	3,510,100円
・ 合計	241,396,400円	・ 租税公課費	65,700円
		・ 合計	3,575,800円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館
 (愛称：まほろん)
 所在地：〒961-0835
 福島県白河市白坂字一里段86番地
 設置者：福島県
 開館：平成13年7月15日
 管理機関：財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
 体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
 (本館2,400.046㎡、収蔵庫棟2,999.769㎡)
 体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91台(うち身障者用4台)
 - ②大型車駐車場 10台
 - ③職員駐車場 21台
 - ④駐輪場 28台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備
 - ・受電方式／高圧6.6KV 1回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・誘導灯設備：消防法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線4回線、内線55回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備、防災設備、空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

- ・空調方式
 一般系統／ガスエンジン空冷HPマルチパッケージ方式(一部空冷HP)＋静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト(空冷冷専パッケージ＋電気ヒーター＋アルカリ除去フィルターユニット)方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト(ガスエンジンHPP)方式
- ・熱源：都市ガス(ガス種別：プロパン)

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流(最終桝でポンプアップ)方式で下水道本管へ放流、
- ・雨水；側溝放流
- ・多目的便所：屋内1箇所(男女別)、屋外1箇所(男女別)、トイレ呼出設備付

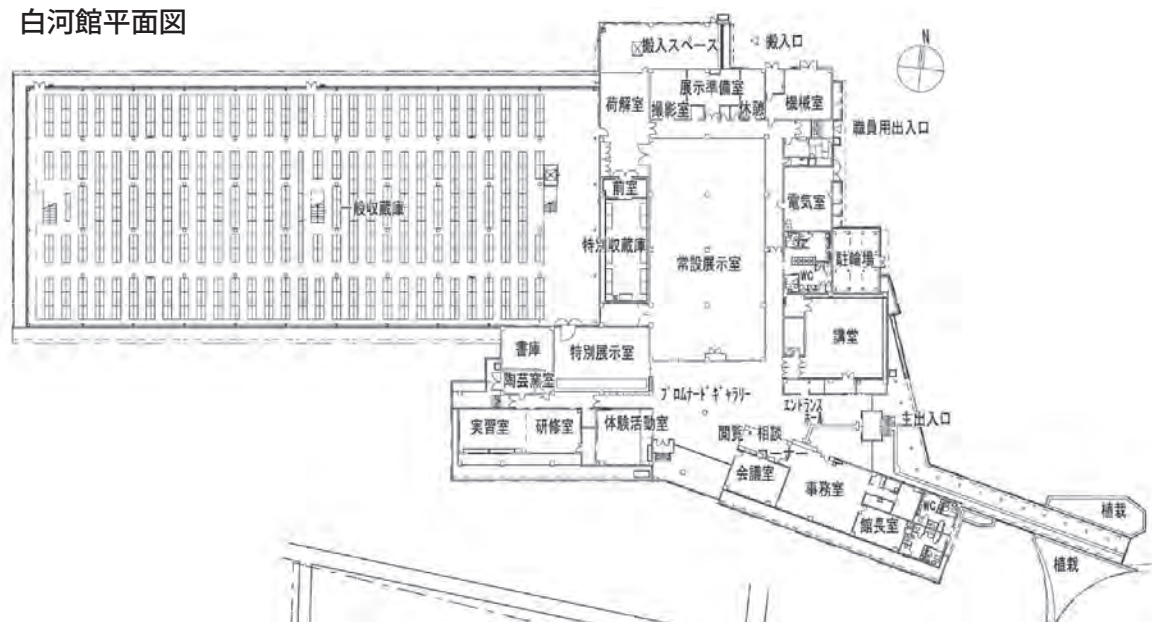
◎建築工事工期

- ・着工：平成11年7月12日
- ・完成：平成12年10月16日

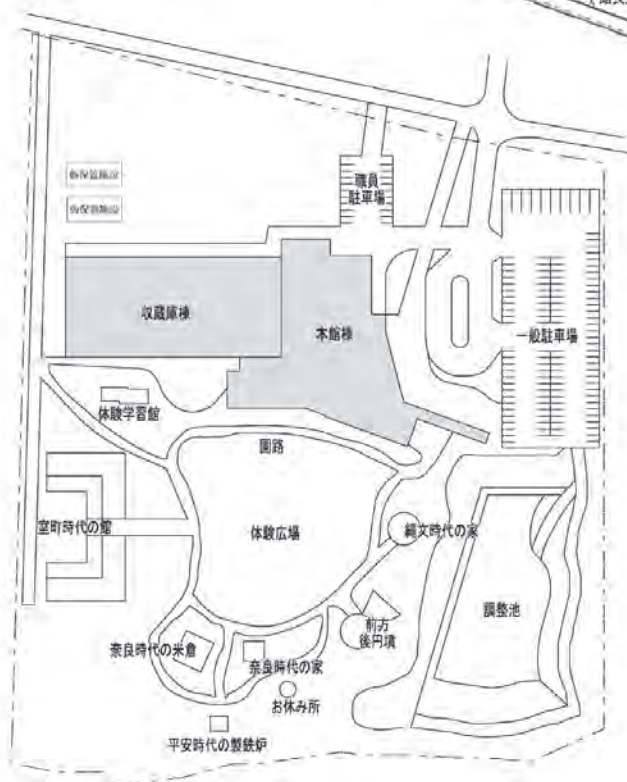
◎総建設費 3,300,625千円

- ・内訳 建築費 2,690,848千円
- 公有財産購入費 222,095千円
- その他の経費 387,682千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表 (㎡)

室 名	面積	備 考	室 名	面積	備 考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚2層目部分2,263
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合 計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	388	2棟 (194㎡×2棟)

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。

(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。

二 白河館の維持管理に関すること。

三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。

2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。

3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。

二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七年条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八年条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日になるとときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。（施行の日＝平成一三年七月一五日）

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

入 館 料 ・ 無料

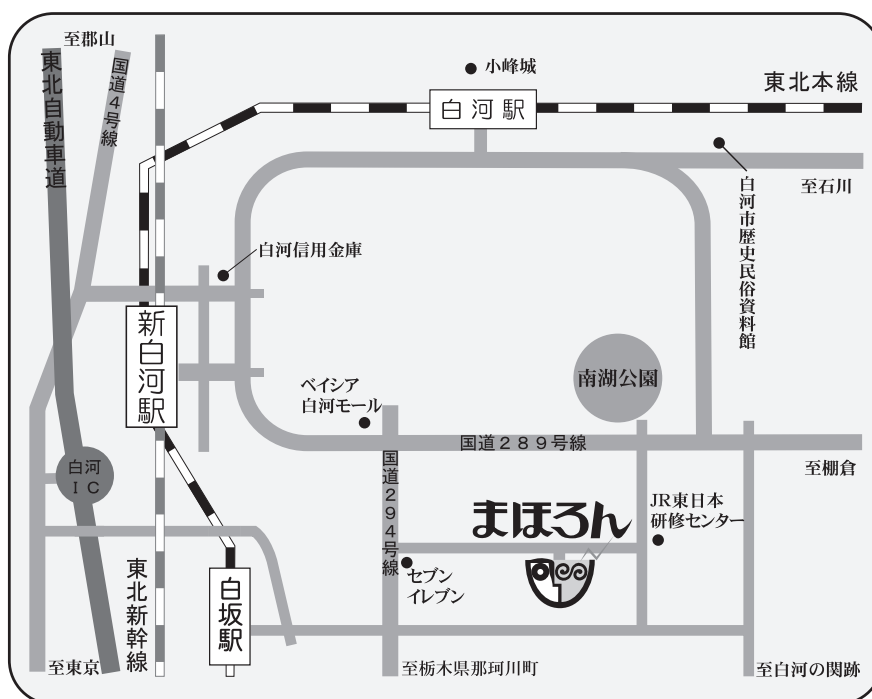
交通案内 ・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ JR東北本線白河駅、JR東北新幹線新白河駅からJRバス（棚倉行き）南湖公園下車徒歩25分

・ 東北自動車道白河I.C. から車で20分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2014

平成 26 年 9 月 22 日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地

TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075

<http://www.mahoron.fks.ed.jp>
